

2月例会報告－出張サロン in 刈谷－

出張サロン in 刈谷に行ってきました。「赤だすき」で有名な刈谷は、聞きしに勝る「サッカーの町」でした。そしてまた、大きな可能性を秘めた町でもありました。

以下、時間を追って概要を述べます（サロン会員の敬称略）。

< 2月1日（土） >

1. 刈谷の第一印象（13:00 刈谷駅～会場まで）

刈谷駅にサロン軍団集合。東京から中塚義実と中村敬、関西から松岡耕自が集い、名古屋から来た高橋義雄の車で、会場である刈谷市総合運動公園へ移動した。途中DENSO本社があったり豊田関係の工場があたり。「工場が多いなあ」が第一印象。中村はすでに駅前のブラジル料理屋に入って、工場で働く南米系の人がこの町に結構いることをリサーチしていた。

会場は、同運動公園グラウンド内会議室。駐車場からそこへ行くまでにだだっ広い芝生公園があるのだが、さっそくそこで少年サッカーの試合をやっている。「赤だすき」のユニフォームを着ているチームもいた。刈谷の少年クラブが招待試合で利用しているとのこと。一方、スタンド付きのメイングラウンドではおじ（い）さんがサッカーをやっている。こちらはマスターズの試合でこれもリーグをやっているとのこと。さっそく「サッカーだらけ」である。

2. セミナー（14:00～17:10 頃）

< セミナー 1 >

刈谷市のサッカー環境－これまでとこれから（刈谷市サッカー連盟：神谷理事長・原田副理事長）

< セミナー 2 >

豊かなスポーツ環境構築のために－DUO リーグから U-18 東京都リーグまで（中塚義実）

約 20 名の参加者は、地元刈谷の方々とサロン正規軍、及びサロンの連絡網でやって来た学生たち。

刈谷サッカーの歴史と現状は非常に興味深いものであった。DUOリーグの組織化過程と公認リーグ立ち上げの準備状況、及びそれらの背景にある考え方についても、刈谷の方々は熱心に聞いておられた。

詳細は後日改めて報告する（現在、刈谷サイドでまとめているところですが、ここでは一つだけ指摘しておきたい。刈谷高校のユニフォームである「赤だすき」が刈谷のシンボルであることは間違いない。少年も中学生も「赤だすき」にあこがれ、また歴史的背景から自チームのユニフォームに「赤だすき」を

つけている少年チームもある（富士松FC）。しかし、刈谷高校をはじめとする「学校」がささえてきた刈谷のサッカーも、中学生が他地域（岡崎や名古屋）へ流出する中で限界が見えている。一方、デンソーサッカー部は、強化クラブから外れてはいるがJFLレベルを維持し、刈谷市のトップチームとして機能しているが、いまだ「企業」と「地域」間に隔たりがあるという。学校スポーツと企業スポーツのいずれにも限界が見られる中で、真に地域に根ざした「刈谷FC（仮称）」を立ち上げる方向に持っていくとするなら、「赤だすき」というシンボルを利用しない手はない。例えば「デンソーサッカー部」の名称に「刈谷」を入れ、そのユニフォームを「赤だすき」にする。これだけで「デンソー刈谷（仮称）」をトップチームとする「刈谷FC（仮称）」の骨格はすぐにでき、町を挙げての展開が可能ではないかと感じた。

3. 懇親会（17:30～NTT東海セミナーセンター→2次会）

出張サロンの醍醐味は、何と言っても地元の方々との交流である。神谷理事長はまさに刈谷の顔。とても気さくな方で2次会でも最後まで一緒に盛り上がっていた。さすがである。出張サロンin清水でも一緒だった原田和子副理事長は肝っ玉母さん風で今回の取りまとめ役。その原田さんからデンソーのボランティア仲間として紹介されたのは、刈谷出身の元日本代表（オフトジャパンのMF）、吉田光範氏のお父さんとお母さん。名古屋グランパス育成普及部の松永さんも刈谷在住で、懇親会から参加された。若手の方々ともいろんな話で盛り上がった。すばらしいひと時である。

そして今回は懐かしい仲間との再会もあった。セミナーにも来ていたのは大学時代のサッカー部の2年後輩で、学生時代は私のオンボロアパートにしょっちゅう風呂に入りに来ては飲んで帰っていった大木君である。彼は今年から、母校である刈谷高校のサッカー部顧問になっらしい。

そしてもう一人。デンソーサッカー部長の関谷君。大学サッカー部の同期である彼も飲み仲間。デンソーが「日本電装」だったころ、サッカー部強化1期生として就職した彼は、その後しばらくサッカーから離れていたが、今年の年賀状には「またサッカーに関わることになった」と書いてあった。しかしまさかデンソーサッカー部の部長になったとは…。副理事長の原田さんも世間の狭さに驚いていた。懇親会、2次会では、懐かしい話とともに、刈谷サッカーの夢について理事長も含めて大いに語り、盛り上がったことは言うまでもない。ついでながら、デンソーサッカー部監督の山下君も大学の後輩である。つまり刈谷サッカー界の中核とも言える刈谷高校サッカー部、デンソーサッカー部はいずれも筑波大卒業生が重要なポストについているのである。刈谷が一気に身近に感じられた。

<2月2日（日）>

4. 少年サッカー大会観戦（9:00頃～10:00過ぎ）

前夜の酒が残ったまま朝食を取った（しっかり食った）後、原田さんの車で「港町グラウンド」に行き、「第16回刈谷市小学生サッカー選手権大会（豊田工機チャレンジカップ）」を見に行った。芝生のただっ広いグラウンドに、少年用サイズとはいえ4面とって一気にゲームが進行できる状況は、少なくとも

東京ではほとんど見られない。グラウンドがあるのが前提やなあをつくづく思った。

この大会は、刈谷市内の15の小学校から25チームが参加して行われる6年生大会で、「小学生にとっての最後の大会」と位置付けられる。2月に行うのは「最後までサッカーをやって中学につなげてほしいから」という意図らしい。ちなみにこの大会が終わったら、女子のバスケットボール大会が同じように行われるという。刈谷の小学生は、男子がサッカー、女子がバスケットボールをすることになっているらしい。

刈谷のサッカー少年たちは、小学校単位のチームで平日の放課後練習し、週末は、市内に7つある少年サッカークラブで活動しているという。昨日総合運動公園で見た少年サッカーは、その中の一つのクラブが主催で招待試合を行っていたもの。このように他の地域との交流（全国大会予選も含めて）の単位は協会登録している「クラブ」であり、学校のチームは刈谷市内の大会にのみ参加する単位である。こうした構造がバランスよく成り立っているのは、刈谷市サッカー連盟の長年の積み重ねと学校の理解・サポートあってこそだと感じた。「サッカー狂」だらけというのがいい。

開会式ではなぜか私も挨拶することになり、刈谷のサッカー少年のプレーが楽しみであることを述べ、「ゲーム後に互いに握手しよう！」ということ呼びかけた。けど、残念ながら誰もやってくれなかった…。こういった習慣は日常があってこそである。神谷理事長は「ゲーム後の握手」の重要性をしっかりと認識してくださったので、次に来た時は変わっているだろう。

5. ミニサッカー（10:30 過ぎ～12:00 頃）

総合運動公園へ移動して、駐車場脇の公園でミニサッカーをすることになった。ここも芝生のスペースで、我々が着いたときには、すでに3つぐらいの団体がそれぞれ練習やミニサッカーをやっていた。都内であれば普通の公園は「サッカー禁止」になっているが、刈谷ではどこもかしこもサッカーだらけである。刈谷の人はサッカー以外の遊びはやらないのだろうか。

相手チームは、すでにそこで練習をやっていた20～30代前半までと思われる若手チーム。神谷理事長が指導されていた富士松クラブのトップチームで、「サンターナ」という名で刈谷市社会人リーグから西三河リーグへの昇格を狙っているチームらしい。そんなバリバリの若者を相手にしようとするわが「サロン連合軍」は、正規軍が中塚と中村のみ。高橋は昨日のうちに名古屋に戻り、修士論文提出翌日にやって来た松岡は着替えを持ってきておらず見学（かわいそう）。これに地元刈谷からは神谷理事長を長老に、20代後半から30代の若手(?)数名と、名古屋グランパスの松永氏。女性も1名参加し（原田さんは見学）、完全に寄せ集めチーム。普通の練習をしていた「サンターナ」にしてみれば、「このチームは一体何だろう」と思ったに違いない。

しかし先制したのはサロン連合軍。私の先制ゴールに続いて2点目もサロン軍が取り、一気に盛り上がる。サンターナもマジになってきて1点を返す。芝生なので気持ちがいい。最後尾に位置する松永氏の

指示がさえ、サロン連合軍は「ベンゲルサッカー」並みの組織的な守備でサンターナの攻撃を防ぐ。こぼれ球を松永氏がクリアー、それがうまくカウンターにつながるという、おじさんサッカーの理想的展開に加え、都心部の学校（昭和一高）で育った中村の細かなテクニックが冴え、最後は高校の数学の先生である榊原氏のヘディングシュートが決まって4-2で勝利した。

ゲーム後の握手はとてもさわやかだった。

6. 刈谷温泉（～13:00頃）で解散

ゲームの終了は12時ごろだったろうか。松永氏はメインスタジアムで行われていたグランパスの少年の大会に戻り、原田さん、神谷理事長ともそこでお別れをした。そして中塚、中村、松岡は、地元の谷澤氏の車で「刈谷温泉」（「スーパー銭湯」みたいなところ）へ。サッカーで汗をかいて、温泉で汗を流して…気分はサイコー！

駐車場にいっぱい車が止まっており、中も結構人が多かった。刈谷の若者は、サッカーやってから結構こうした銭湯に集まるのだそうだ（もう1ヶ所あるらしい）。刈谷市サッカー連盟はまだ事務局を持たないというから、こういうところに事務局を持ってきて、「刈谷温泉」を皆が集うクラブハウスにすれば、最高のスポーツライフ、クラブライフが楽しめるやろなあと思った。

とにかく今回も最高の出張サロンでした。これだから出張サロンは止められない！